

コープきんき

生活協同組合連合会コープきんき事業連合

コープきんき、7生協の仕入れ業務を ASTERIA Warp Liteでスムーズに!

必要な時に必要な機能だけを選んで手軽に連携

生活協同組合連合会コープきんき事業連合（以下、コープきんき）は、コープしが、京都生協、ならコープ、よどがわ生協、おおさかバルコープ、大阪いずみ市民生協、わかやま市民生協が集まった事業連合だ。2003年7月に創設され、7つの会員生協を合わせて150万人を超える組合員を抱えている。従来はそれぞれの会員生協が独自に行っていた商品の仕入れや開発を共同で行なうことで、コストメリットを拡大して組合員に還元するのが狙いだ。各会員生協から集められた発注データに基づいて200を超える仕入れ先に発注予定メールを一斉送信する仕組みを、ASTERIA Warp Liteを使って実現している。



コープきんき なないろサラダ

システム統合に伴い 必要な機能のみの追加が課題に

コープきんきは共同仕入れを目的とした事業連合として2003年に創設されたが、発注、決済を一度にコープきんきに統合するのは難しく、まずは決済のみを一括で行なう仕組みが構築された。その後順次共同の分野が拡大し、2009年に食品事業でも一括発注の仕組みを作ることになった。食品の仕入れでは実際の発注より前に、在庫確保のために見込み数量を発注予定として通知する。しかし既存のシステムには見込み数量を通知する機能がなく、事業支援本部 システム部 マネジャーの竹内氏はできるだけ少ない工数でこの機能だけを追加するためのツールを求めている。

2009年2月に事業支援本部 システム部の増本氏はTDCソフトウェアエンジニアリング株式会社（以下、TDCソフト）が開催したハンズオンセミナーでASTERIA Warp Liteに触れ、見込み数量の発注に必要な機能があることを確認。さらに体験版をダウンロードして、実際にASTERIA Warp Liteパイプライン機能を試用した。

「直感的に操作できるというのが第一印象でした。既に作りたいシステムのイメージがあったので、簡易なものを構築して、実現可能かどうかを試してみました。必要な機能が備わっているかどうか試してみるうちに使い方を会得できるくらいにわかりやすさでした。これなら目的通りの仕組みを構築でき、しかも自分たちでメンテ

ナンスもできると思いました」と増本氏は感想を語る。

ASTERIA Warpパイプライン機能は、データを読み出す[センサー]、データを加工、変換する[フィルター]、そしてデータを送出する[ジョイント]の3つのパーツで構成されている。それぞれの設定をWeb画面から行なうだけで使い、定型処理の自動化に特化した、簡単で安全、スピーディに導入できる機能だ。最小限のシステム構成からスタートでき、初期コストの負担も低い。実現したい処理が明確だったコープきんきの要件にマッチしていた。

発注予定メールの一斉送信システムを 短期間で構築 稼働後の動作実績も100%

実際の導入に当たっては、TDCソフトがASTERIA Warpパイプライン機能の雛型（テンプレート）作成を行なうなどサポートを行い、構築や実装はすべてコープきんき社内で行なった。「ノーコードで開発できて、テストもワンクリックでできるASTERIA Warp Liteがなければ社内開発は行なわなかったでしょう。Slerやベングのサポートがほとんど不要なほどわかりやすいうえ、ASTERIA Warpユーザーフォーラムで情報共有も活発に行なわれているので、開発に際して困ることはありませんでした」と開発の中心となった増本氏は語る。

導入から2ヶ月後の2009年8月、コープきん



事業支援本部 システム部
マネジャー

竹内 忠之氏
たけうち ただゆき



事業支援本部 システム部

増本 徹氏
ますもと とおる

●CORPORATE DATA

生活協同組合連合会コープきんき事業連合

近畿地域の7つの生活協同組合（会員数150万人、年間利用高2300億円：設立時）で利用している商品の共同開発や低価格を進めるために創設された事業連合体。会員への還元効果を高めるため、業務システムにも高いコスト意識を持つ。

※文中の会員数、利用額は、2003年7月に発表されたコープきんき事業連合設立趣意書（<http://www.kinki.coop/csr/social/prospectus.html>）より引用いたしました。

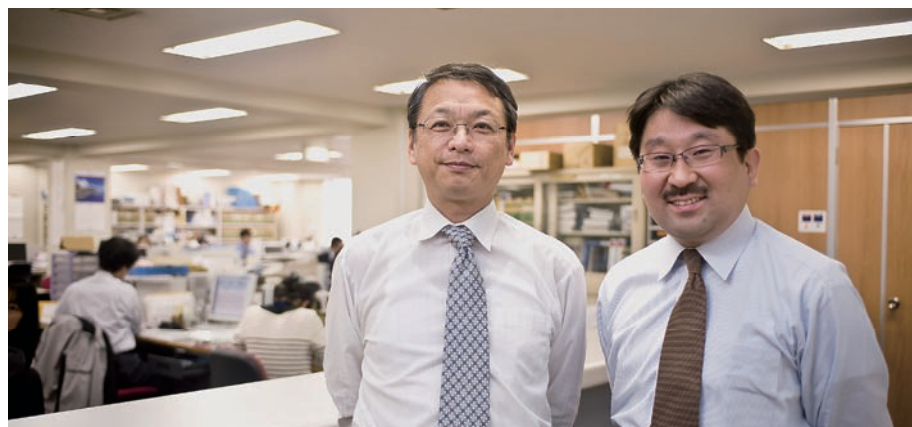
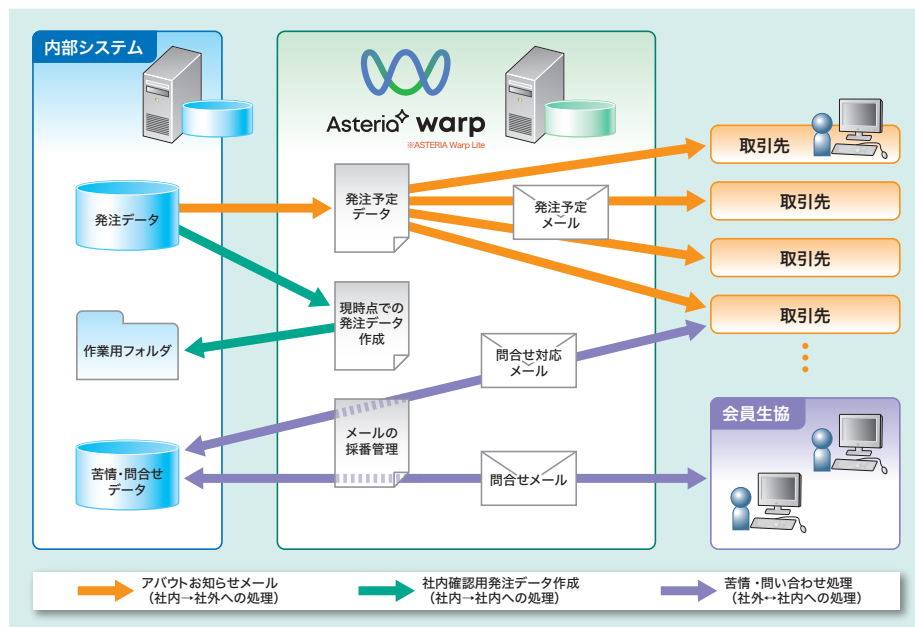
本社所在地 ●大阪市淀川区西中島5丁目13番9号
URL ●<http://www.kinki.coop/>

きで「アバウトお知らせメール」と呼ばれている発注予定メールの一斉送信システムが稼働を始めた。毎週1回発注データを参照、各仕入れ先ごとの発注予定リストをメールに添付し、200件以上の仕入れ先へメールで送信している。同様の処理を人手で行なえば現実的ではない業務量になり、一方でこの機能だけのために新規の開発を行なえばコストが見合わない。ASTERIA Warp Liteがあってこそ低負荷で実現できた処理だ。

また、ほぼ同時期に苦情処理の仕組みもASTERIA Warp Liteで構築された。それまでは各会員生協で処理していた苦情や問い合わせのメールをまとめて受け取り、コープきんきで統合して対応するための仕組みだ。受信したメールを自動処理し、案件番号などをつけて振り分けている。「システムとシステム、システムと業務の小さな隙間を埋めることで、これまで手作業で行なっていたデータのコピーや変換を自動化でき、日々の業務を大幅に効率化できます。ASTERIA Warp Liteなら短期間に構築でき、稼働後の動作実績も100%。業務負担軽減に期待通りの効果をもたらしてくれています」苦情処理を自動化することで業務効率を向上させ、問い合わせへの対応ミスも軽減できると、竹内氏は満足そうに語ってくれた。

またASTERIA Warp Liteの仕様書出力機

生活協同組合連合会コープきんき事業連合 構成図



能を使うと、ワンクリックで処理内容をHTML文書に出力できる。開発や改修の際に手間をかけずに最新バージョンに関する仕様書を保存できるので、社内開発による業務の属人化を防ぐために活用されている。

**多種多様な社内のニーズにも即対応
データ処理業務の自動化をさらに支援**

コープきんきでは、その他でもASTERIA Warp Liteを積極的に業務に活用している。たとえば、社内で発注状況を確認したいという

ニーズを受け、定期的にデータを指定のフォルダに書き出すASTERIA Warpパイプラインを作成した。また、全取引先に向けて通知しなければならない要件ができたときには、すぐに一斉同報の仕組みを作って対応した。その後も業務の隙間を埋めるための多種多様なニーズに応え、ほぼ毎月ひとつのペースでASTERIA Warpパイプライン機能を作成している。システムからシステムへのデータ受け渡しや、業務現場へのデータ提供など、人を介し解決されているシステムの隙間は多いが、システム化で対応するほど多額のコストと時間はかけられない。このような定型作業を自動化することで、現場業務の作業負荷を大きく軽減できている。

「要件があれば、すぐに社内に対応できるようになりました。自動化されれば便利だけれどもシステム化するほどではなかったような、業務の隙間を埋めていっている雰囲気です。細かい要件が決まっている簡単な処理を自動化するには、最適なツールだと増本氏は言う。

また、竹内氏もASTERIA Warp Lite導入の効果に満足しており、「近いうちに、Excelファイルを読み書きできるアクション機能を追加導入することが決定しています。業務の現場で最も多く使われているファイル形式なので、ASTERIA Warp Liteの活躍の場がさらに増えるのではないかと期待しています。拡張の度合いに応じて必要な機能を購入でき、ステップバイステップで展開していけるのも、ASTERIA Warp Liteの魅力ですね」と語る。コープきんきの日々の業務の隙間が少しずつ埋まり、スムーズさを増していく。その支えとしてASTERIA Warpは今後も活用されていこう。

Asteria
アステリア株式会社
<https://www.asteria.com/>

〒140-0014 東京都品川区大井1丁目47番1号 NTビル1F
 TEL. 03-5718-1250

このカタログに記載された情報は2010年5月現在のものです。内容は予告なしに変更することがあります。Asteriaはアステリア株式会社の登録商標です。その他、各会社名、各製品名は、各社の商標または登録商標です。

©2020 Asteria Corporation

お問い合わせ先：